

令和元年度 学校自己評価表(報告)

学校運営計画					
学校運営方針		豊かな人間性をめざして高い知性と確かな学力を養い、進路目標の実現を図るとともに、自主性と責任感を養い、基本的な生活習慣を確立させることにより、明るく爽やかな生徒を育成する。			
教育目標					
1 学校教育に関する法規の定めるところに従い、国際的視野に立ち、社会の変化に主体的に対応できる能力と態度を育成する。 2 心身の調和のとれた成長・発展を目指し、豊かな心でたくましく生きていくことのできる人間を育成する。					
指導方針					
1 自主性の確立 自分の考えをしっかりとつ習慣を身につける。 ア 客観的、総合的に判断して、知性ある正しい行動ができるような習慣を養う。 イ 高い価値を求める心情を育成する。 ウ 自分で自分を律することができる強い意志をもつ。 2 責任観念の養成 自分の言動に責任をもつ生活態度を養う。 ア 困難に耐え、積極的に自分の仕事を全うする気力をもつ。 イ 働くことをいとわず、誰からも信頼されるよう心がける。 ウ ルールを尊重し、明るい社会の建設に励みあう連帯感を養う。 3 協力精神の育成 相手の立場を考えて行動する心構えを育てる。 ア 相手を敬い、理解し得るような社会性を養う。 イ すすんで社会に奉仕する謙虚な心をもつ。 ウ 正しいエチケットを身につける。					
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標		
【成果】生徒、保護者、職員等へのアンケートを実施し、学校運営の改善につなげた。また、生徒の規範や安全・人権に対する意識を高める取り組みを行い成果を上げた。教育相談体制についても、より一層の充実を図った。 【課題】アンケート結果や意見を踏まえ、一層の教育活動の充実に取り組む。進路希望実現に向け、生徒の学力を向上や特色ある教育活動を一層推進し、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で醸成する。また、心身ともに健康な生活を送ることができるよう、さらなる教育相談体制の充実を図るとともに、学校全体で支援体制も構築する。		時間を大切に生活習慣と学習習慣の確立を図り、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。	自己管理能力の醸成及び教育相談の充実、いじめ未然防止・早期解決		
		生徒の実態に即した授業内容の改善と工夫によって学習意欲を育むとともに、生徒の進路実現を可能にする確かな学力を養成する。	授業評価の実施、授業改善と課題の精選、家庭学習時間確保、個別学習指導		
		体験的進路学習を通じて生徒の進路意識を高め、進路希望の実現を図る。	土曜活用、模擬試験、講演会、体験学習、進路情報等の充実、センター試験受験奨励		
		校外の研修会への参加や自主的研修により、教職員の指導力の向上を図る。	授業公開、校内研修会の充実、研修に対する教職員の意識の高揚		
分野	具体的目標	日とする評価基準	取組の結果	評価	
学校経営	安全・安心な学校づくり	生活意識調査で、学校生活に「満足」「どちらかといえば満足」が80±5%。	生活意識調査において、高校生活に「満足している」「どちらかといえば満足している」との回答は、全体の80.0%であった。	B	
	進路希望の達成	3学年当初の進路希望に対する達成率が80±5%。	進路希望に対する達成率は、82.4%であった。	B	
	組織的な学校運営	職員アンケートで、「組織的な学校運営がなされている」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80±5%。	職員アンケートの結果は86.8%であった。運営委員会中心に、組織的な学校運営が実践された。	A	
1学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上	生徒アンケートから「あてはまる」が14%、「ややあてはまる」が47%	C	B
	基礎学力の定着	スタディーサポート・進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上	1月進研模試：普通科69.9%、学究97.5%、食物28.2%、音楽26.7%で学年全体：69.6%	A	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上	「充実していた」35.8%、「どちらかと言えば充実していた」51.2%で合計87%	A	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
2 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上	なかなか全生徒が毎日学習時間確保できなかった。後半はほぼ出来てきた。	B
	基礎学力の定着	・年度末のアンケートでスタディサプリを「活用できた」、「どちらか」と活用できた」の回答が80%以上 ・11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上	スタディサプリの活用率が80%行かなかった。来年度はもっと活用したい。 11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上は達成できた。	B
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が85%以上	アンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が90%以上を達成した。	A
3 学年	学力の伸長	① 模試のGTZのB2以上の割合で、2年次の2月進研マーク模試から3年次11月ベネ駿模試にかけて10%アップを目指す。 ② 生徒のアンケートで「学力が伸びたと実感できた」とする割合を60%以上とする。	①5教科総合（全体）GTZがB2以上の割合は2月進研マークが25.9%、3年11月模試が22.2%であった。 ② 生徒アンケートは、「よくあてはまる」が19%、「まあまああてはまる」が56%であった。	B
	適切な進路情報の提供と進路希望達成のサポート	① 生徒へのアンケートで「進路情報が適切に提供されている」と感じる割合が80%以上。 ② 生徒のアンケートで「先生方は質問や相談によく応じ、サポートしてくれる」の割合が80%以上。	① 生徒アンケートで、「よく」と「まあまあ」合わせて78%であった。 ② 生徒アンケートで、「よく」と「まあまあ」合わせて86%であった。	B
	進路希望の達成	① 大学進学における合格者を国公立65人以上、難関大3人以上とする。 ②就職希望者の100%の内定者を実現する。	① 国公立大学合格者は40人（12日現在）、難関大合格者は0人であった。 ② センター試験出願率は、82.4%であった。 ③ 就職希望者は全員内定した。	C
学究コース	学力養成・進路実現	3 学年：進研模試でGTZ B1以上が30人、国公立大学合格者が35人。 2 学年：11月進研模試で英数国3教科偏差値50以上が50%、3教科学力A3以上が30%。 1 学年：スタディーサポート・進研模試の3教科学力A3以上が30%。	6月進研マーク5教科総合：34名 7月進研記述5教科総合：36名 国公立大学合格者：23名 11月進研模試結果 偏差値50以上：59% GTZA3以上：15% 1月進研模試3教科で学力A3以上が31.6%。	B
	家庭学習の定着	3 学年：週30時間以上の家庭学習を行う生徒が60%。 2 学年：週23時間（平日3時間、休日4時間）以上の家庭学習を行う生徒が80%。 1 学年：週23時間（平日3時間、休日4時間）以上の家庭学習を行う生徒が60%。	1 学期及び夏季休業中：45.6% 2 学期及び冬期休業中：80.3% 1 学期～冬季休業：61.3% 平均学習時間 1学期（平2.3h、休3.2h） 2学期（平2.9h、休3.2h） 3学期（平2.9h、休4.1h） で、割合は84%であった。 2月の家庭学習時間調査で週23時間以上の家庭学習を行った割合が69.6%であった。	A
	授業力の向上	生徒アンケートを実施、【授業が「わかる」「できる」】項目の「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。年間通し全員が授業公開を行い、意見交換をする。	アンケート結果 1 学年①90.9%②98.7% 2 学年①92.7%②96.4% 3 学年①94.2%②95.8% 全員が授業公開を行い、学年内で意見交換を行った。	A
国語科	学力の伸長 1 学年	1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が80人以上。学究56以上が30人以上（昨年度80人、28人）。	1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が96人。学究56以上が40人。	A
	2 学年	進研2月マーク模試「国語」で偏差値（普・学）50以上が140人以上（昨年度147人）。	偏差値（普・学）50以上が122人だったが、割合的には46.2%（昨年度49.5%）であった。	B
	3 学年	センター試験「国語」で全国平均点以上が120人以上（昨年度114人）。	全国平均点以上は108人だったが、割合的には37.8%（昨年度35.5%）であった。	B

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
地理 歴史 公民科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	全員が授業公開を実施し、科会において意見交換を行った。	B	B
	授業力の向上	生徒アンケートの【地歴公民の授業が「わかる」実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上。	授業アンケートの結果は全体で89.6%(1年-82.3%、2年-87.6%、3年-93.7%)であった。	A	
	学力の伸長	センター試験の各科目の平均点が全国平均点-5点以内。	世界史B-17.4、日本史B-14.0、地理B-16.3、政治・経済-4.6、倫理+2.5	C	
数学科	学力の伸長	3学年：センター試験 数学①で50点以上が70人以上	50点以上は16人であった(前年度は27人。前年度より受検者が47人減)	C	A
		2学年：進研2月マーク模試の数学①で 偏差値50以上が90人以上	偏差値50以上は96人であった(前年度は109人)	A	
		1学年：進研1月記述模試の数学で 偏差値50以上が120人以上	偏差値50以上は113人であった(前年度は138人)	B	
	授業力の向上	生徒アンケートの【数学の授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上	「当てはまる」が44%、「やや当てはまる」が44%、合わせて88%であった	A	
理科	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して全員が授業公開を行う。	よりよい授業実践のため、全員が授業公開を行った。	B	B
	基礎学力の向上	授業に関する生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。	授業に関する生徒アンケートを実施した結果、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が96.1%であった。	B	
	新学習指導要領への対応	主体的・対話的で深い学びの実現のために、情報収集や意見交換を行い、授業改善の取り組みを進める。	主体的・対話的で深い学びの実現のために、授業公開後に意見交換を行う等の授業改善の取り組みを進めた。	B	
保健 体育科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	全員が授業公開を実施し、科会を通じて意見交換を行った。	B	B
	基礎体力の向上	体力テスト総合判定において、C判定以上を70%、B判定以上を30%とする(2.3年次は前年度との比較も行う)。	体力テスト総合判定において、C判定以上を約75%、B判定以上を約40%。(前年度数値との比較、1学年女子と男子は向上。2.3学年女子は低下)	A	
英語科	学力の伸長	3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上が80名以上・英検準2級以上を5割以上が取得。 2学年：1月進研模試で偏差値50以上が60名以上・英検準2級以上を4割が取得。 1学年：1月進研模試で偏差値50以上が60名以上・英検準2級以上を2割が取得。	3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上は71名、英検準2級以上取得は168名、46.0%だった。 2学年：1月進研模試で偏差値50以上が98名、英検準2級以上取得者は130名、38.0%であった。 1学年：1月進研模試で偏差値50以上が98名・英検準2級以上を25名が取得	B	A
	授業力の向上	生徒アンケートの【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて8割以上。	生徒アンケート【分かりやすく、内容がよく理解できる】に「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒が91%であった。	A	
食物科 ・家庭	専門調理技術を習得し、進路希望を実現する。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が80%。 専門教育を生かした進路の実現が80%。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が90%以上。 専門教育を生かした進路の実現が75%。	B	A
	食の総合的実践への取り組み	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.2。	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.3。	A	
	生活技術の向上	家庭基礎・家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が75%	家庭基礎・家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が8割	A	

分野	具体的目標	目とする評価基準	取組の結果	評価
音楽科 ・芸術	芸術性豊かな演奏家・音楽教育者の育成	音楽科で習得した知識や技術を生かした進路の達成率75%。	3年生で音楽科で習得した知識や技術を生かした進路に進んだ生徒が95%であった。	A
	アンサンブル活動を通して、協働して音楽表現する力の向上	定期演奏会において、自分の役割を果たすことができた生徒が80%。	「できた」「ややできた」を合わせて84%であった。	B
	表現力の向上	音楽・美術・書道の科目の各選択において、生徒アンケートで「芸術の授業をとおして自己表現ができた」と答える生徒が75%	「できた」「ややできた」を合わせて76%であった。	B
情報科	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して授業公開を行うとともに、教員間で意見交換を行う。	授業公開は実施しなかった。チームティーチングを行うなど、授業のサポートを教員間で行った。	C
	情報活用技術の向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報活用技術の向上がみられた」と答える生徒が70%	よくあてはまる(52.4%)とややあてはまる(39.6%)を合わせて92.0%であった。	A
	情報モラルの向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報モラルの理解が深まった」と答える生徒が80%	よくあてはまる(53.5%)とややあてはまる(39.6%)を合わせて93.1%であった。	A
学習指導 (教務)	授業力の向上	よりよい授業実践のため、授業公開月間を年2回設定し、年間をとおして全員が授業公開を行う。また、教科会を実施し、各教科で授業改善のための意見交換を行う。	・すべての教諭・常勤講師が授業公開を行った。また、担当外の教科科目の授業の見学も増加した。 ・教科会を実施し、教科指導に関する話し合いを行った。	A
	基礎学力の向上	生徒に学力の伸長を感じさせられるような授業改善を図る。全員が授業に関する生徒アンケートを実施する。『授業では「わかる」「できる」が実感できた』：80%以上。『今年度のこれまでの学習で学力が伸びたと感じている』：70%以上。	・生徒アンケートの結果()内は前年>授業では「わかる」「できる」が実感できた：全体74%(76%)、普通72%(77%)、学究84%(83%)、食物66%(67%)、音楽67%(69%)。今年度のこれまでの学習で学力が伸びたと感じている：全体58%(57%)、普通58%(55%)、学究69%(65%)、食物44%(52%)、音楽55%(53%)。 ・生徒に学力の伸長を感じさせられるような授業改善が必要であり、教務部としてどのような働きかけが可能か検討する。。	A B
生徒指導	校則に基づいた服装、髪型の指導を行う	職員の共通理解のもとに頭髪服装検査を年8～9回行い、各回の校則違反者を各学年10人以下とする。	頭髪服装検査を予定どおり実施し、各学年の違反者はそれぞれ10人に満たなかった。	A
	交通安全を心がける生徒の意識向上をはかる	生徒アンケートで「交通マナーを守っている」「ほぼ守っている」の回答が90%以上とする。「チュウオウの品格」を定期的に発出し、交通安全を働きかける。	交通マナーはほぼ守られているが、交通事故が7件発生した。チュウオウの品格を定期的に発出できた。	B
	安心・安全な環境で共感的な人間関係を育む	スマートフォン等の利用に関して、ネットパトロール報告件数を昨年度より減少させる。また人間関係トラブルを未然に防ぎ、昨年度より減少させる。	スマートフォン等の利用に関して、ルールを改め校内状況が改善された。人間関係トラブルも、昨年比1件減少した。	B
進路指導	進路に関する有効な情報提供	学年集会時での講話や学習環境整備の内容及び配布物・刊行物の活用等について「有効」、「ある程度有効」とする教員・生徒・保護者が80%	保護者は80%以上、1年生72%、2年生は56%、3年生は77%、生徒全体で68%であった。	B
	進路目標の達成	・1・2年：11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上 ・2年：の年度末のアンケートでスタディサプリを「活用できた」、「どちらかという活用できた」の回答が80%以上 ・3年：センター試験出願率85%以上、国公立大学合格65名、難関大合格3名、就職希望達成100%	2年生のスタディサプリを「活用できた」、「どちらかという活用できた」の回答が35%であった。進研模試「B3」以上は1年が66%、2年は44%。センター出願率は82%、国公立大学合格は40名、難関大合格は0名、就職希望達成100%であった。	B C
保健環境	学習環境の整備を積極的に推進する態度の育成	生徒アンケートで「普段の清掃はまじめに取り組んだ」の回答が80%以上。	生徒アンケートの結果「よく当てはまる」は69%であった。「まあまあ当てはまる」との合計は、94%であった。	A
	心身の健康問題の早期発見・対応による重症化防止	生徒アンケートで「先生方は悩みを十分聴いてくれた」「どちらかといえば聴いてくれた」の回答が80%以上。日常の相談活動、関係職員との連携により保健室頻回来室者(年10回以上)を50人以下。	「先生方は悩みを十分聞いてくれた」「どちらかといえば聞いてくれた」合わせて83%であった。年10回以上の頻回来室者数は52人で50人を上回った。	B B

分野	具体的目標	目とする評価基準	取組の結果	評価
生徒会指導	学校行事で自分の役割を果たして活動する。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、どのような役割を果たし、どのような活動をしたかを具体的にあげてもらうとともに、「貢献度（自己満足度）」が90%以上。	中央祭では85%の生徒が、貢献できたと回答。秋桜祭では、76%の生徒が具体的な役割を果たして参加したと回答があった。	B
	学校行事が充実している。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、「充実している」が90%以上。	中央祭、秋桜祭後のアンケートでは、ともに「充実した」または「楽しかった」が86%であった。	B
	生徒会執行部員のリーダー性の育成。	年度末に生徒会執行部へアンケートを実施し、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が80%以上。	執行部の意見によると、全校生徒から「理解」は得られていると感じるが、「協力」はあまり得られていないと感じているという。	B
図書視聴覚	知的好奇心を高め読書活動の充実につなげるための情報提供	生徒及び職員アンケートで「図書館や図書の情報が随時発信され、高校生活や読書活動に役立った」「どちらかと言えば役立った」の回答が80%。	「図書館や図書の情報が随時発信され、高校生活や読書活動に役立った」「どちらかと言えば役立った」のアンケート結果が98%であった。	A
	視聴覚機器・機材の維持、管理とともに操作手順の習得に努め、効果的な活用を図る	職員アンケートで「時間・場所等、適材適所に応じて、視聴覚機器機材の運用がなされているか」について「そう思う・どちらかと言うとそう思う」が90%。	アンケート結果は96%であったが、機材の老朽化等による不調も見られたので次年度の反省材料として引き継ぎたい。	A
総務	PTA活動の活性化及びPTA総会等の参加率向上	保護者の25%以上がPTA関連行事に参加。	5月PTA総会への参加者が全体の24%に留まった。	C
	PTA役員による中央グッズの企画、販売	創立120周年を控え、学校への関心をより多くの人に持ってもらうことを目的に、中央グッズの企画と保護者への周知を積極的に行い、昨年度より多くの人に購入していただく。	中央グッズの売り上げが例年以上に伸びた。創立120周年に向けて、ステッカー・クリアファイルを新たに作ることにし、現在企画中である。	A
人権教育同和教育推進	人権教育、同和教育についての共通理解を深める	各種研修会等に参加し、研修内容を教職員に報告、周知することなどにより、人権教育、同和教育についての全職員の共通理解を深める。職員アンケートを実施し「研修会報告によって人権教育、同和教育についての理解が深まった」との回答が85±5%。	職員アンケートにおいて、「よくあてはまる」と「まあまああてはまる」の合計が96.3%となっており、目標を達成することができた。	A
	人権教育、同和教育に対する意識向上をはかる	人権教育、同和教育に対する啓発を目指し、校内で全校生徒及び教職員対象の講演会を実施し、全体的な意識の向上を目指す。講演会后、生徒及び教職員にアンケートを実施する。生徒アンケートにおける「講演会の内容が理解できた」との回答が85±5%。職員アンケートにおける「講演会によって人権教育、同和教育についての理解が深まった」との回答が85±5%。	生徒アンケートにおいて、「よく理解できた」と「理解できた」の合計が98.5%、職員アンケートにおいて、「よく理解できた」と「理解できた」の合計が98.0%となっており、目標を達成することができた。	A
特別支援教育推進	生徒への支援、教員間の情報交換と共通理解	スクールカウンセラー等との連携や実態把握リストの作成により、悩みを抱える生徒の情報や対応を職員で共有し、「生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」とする職員の割合が75%。	「生徒の対応に役立てることができた」37.8%、「どちらかといえばできた」40%で、合わせると77.8%であった。	A
	個別の指導計画の作成と個別指導	支援が必要な生徒に対して、個別の指導計画を作成し、「計画的・組織的に指導を行うことができた」「どちらかといえばできた」とする割合が80%。	「計画的・組織的に指導を行うことができた」15.6%、「どちらかといえばできた」53.3%で、合わせて68.8%であった。	C
成果と課題	<p>今年度より、各教科からも具体的目標を設定して取り組んだ。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点に基づき、年2回の授業公開月間をとおして教科等横断的な視点にも立った資質・能力の育成を図る一助となった。</p> <p>生徒の規範や安全・生命・人権に対する意識を高める職員研修を行い成果を上げた。また、いじめ問題に対して組織的に取り組むことの重要性を再度確認した。今後も組織的な対応について、全職員の共通認識を一層深めていくことが課題である。</p> <p>進路希望実現に向け、生徒の学力を向上や特色ある教育活動を一層推進した。難関大学合格者は出なかったが、次年度以降につなげるのが大切であり、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で醸成する。</p> <p>スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実にも引き続き取り組んでいる。今後も生徒が心身ともに健康な生活を送ることができるよう継続的に支援する。</p>			総合評価
				B